

---

○議長（土屋清武君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 2時05分）

---

◇ 伴 高志君

○議長（土屋清武君） 一般質問を続けます。

通告順位4番、伴高志君。

（2番 伴 高志君 登壇）

○2番（伴 高志君） それでは、通告に従いまして壇上より一般質問を行います。

長嶋町長の就任から1年が経過しようとしています。私は、本年度予算には反対しましたが、その事業や計画について議場の中でも現場でも積極的に関わっていき、改善の余地を働きかけるようより町民の暮らしに沿って町政が運営されていくように日々努力していくことが松崎町議会議員としての責任であると考えてきました。

今回の一般質問では、長嶋町政運営の次の方向性と目標が実現性のあるものか伺ってみたいと思います。

私は、長嶋町長が行った最も評価できることの一つは、平成17年依頼13年ぶりに行った町政懇談会を開催し、そして、町の計画に対して広く町民の方々のご意見、ご要望、本音の声、受け入れる真摯な姿勢をとってきたことだと考えております。この点をふまえて、壇上より一般質問を行います。

既に繰り返しの部分もありますが、まず、1つ目は。新しく町長の公約でもありますが、診療所の建設について。

11月20日、一番最近の協議会の中で議題となりまして、旧岩科幼稚園の改修による診療所の建設予定について、この計画はどのように進められ、開設までの予定、概算事業費用、財源の計画を伺います。また、運営方法や医師、専門職員の確保についての計画を伺います。

②現在、当町では診療所が2つあります。いずれも町の産業医を担っていただいております。これらの診療所に対しては、どのように対応して了承を得ているのか、この点について伺います。

③建設計画予定地は津波浸水区域外なので、防災上も大事な拠点になると思います。平常時は一次救急を提供する場になりますが、災害時に備え必要な薬の備蓄を確保する考えはありますか。

次に、2. 道の駅パーク構想と旧依田邸の改修について。

道の駅・旧依田邸の整備計画は、平成29年3月議会の賛成多数で旧依田邸を町が4000万円で取得することが決まり本格的になってきたと実感しております。

この旧依田邸は町の文化財であることから土日祝日など館内の案内を含めて、コンサートの開催、まちづくり団体による催しが積極的に行われてきたと考えています。

しかし、道の駅自体の整備計画については本年度の当初予算が賛成多数で辛うじて成立したものの町民の理解と協力を得て進められているのかまだ疑問に感じるところが残ります。特に・・・、繰り返しになりますが、直売所の運営については、収支計画の現実性がまだ不透明ではないか。

そこで、道の駅の改修ではなく、旧依田邸の改修に重点を置くべきであると考えますが、町長の考えはどうでしょうか。

②現在の道の駅で、天城山房の飲食とお土産売り場を維持して、新たに直売所建設は見直すべきだと考えますが、町長の考えはどうでしょうか。

次に大きな3番ですが、これは具体的に住民の動物保護の活動をされている関係で質問させていただきました。3. 猫の避妊手術・去勢手術助成についてです。

これは、飼い主が責任を持ってない野良猫の放置を動物愛護団体の方が捕獲し、実費で避妊・去勢手術しています。こういった中で、南伊豆町では平成29年7月から、西伊豆町でも本年4月からこの活動を支援する目的で野良猫の避妊・去勢手術の費用助成を行っています。当町でも同様の補助制度をつくる考えはあるでしょうか。

以上、壇上から3つの質問になります。お願いします。

(町長 長嶋精一君 登壇)

○町長(長嶋精一君) 伴高志議員の質問にお答えいたします。

1. 診療所の建設について。

①開設までの予定、概算総事業費、財源の計画を伺いますということでございます。

現在、当町においては診療所が2つしかなく、加えて医師の高齢化や若い医師が戻って来ないなどの問題を抱えています。このままだとやがては当町から診療所がなくなってしまうことが危惧されるため、津波浸水区域外で、かつ無医地区でもある岩科地区に新たな診療所を建設しようとする計画でございます。

現時点において、町では診療所の医師の確保に全力を上げているところですが、今回の診療所建設計画としては2019年度に実施設計を行い、2020年度には建設工事や医療設備の導入、そ

して2021年4月頃の開設を予定しています。

また、診療所開設後の運営については、町から事業者へ管理運営を委託する指定管理者制度の導入を考えているところでございます。

なお、今回の計画に係る概算総事業費としては1億9千万円を見込んでおり、その財源としては県補助金や過疎債を充てる予定で考えております。

②いま、町では2つ診療所がございます。この2つの診療所に対しては、この計画について了承を得ているのかという質問であります。

今回の診療所の建設計画は、当町の10年先、20年先の地域医療の姿を見据えての医療資源を確保することが目的であります。しかしながら、新しい診療所の建設にあたっては、当然、医師の確保が十分に担保されていることが前提条件となります。

現在、町では医師の確保に向けて全力で取り組んでいるところですが、まだ医師の確保が確定しているわけではありませんので、医師会及び町内の院長には診療所建設を考えているということにご理解いただきたい旨のお話をしてあります。

町としては、医師の確保ができ次第、正式に町内の診療所をはじめ、関係者の皆様へ診療所建設計画の話をし、新しい診療所の建設に向けた理解を求めていきたいと考えているところでございます。

③建設計画予定地でございますが、この予定地は津波浸水区域外であるけれども、災害時に備え必要な薬の備蓄を確保する考えはありますかということであります。

今回の診療所建設予定地は、議員の言われるとおり、津波浸水区域外にあつて防災上も大事な拠点となる場所となりますので、そこへ災害時に備えて必要な薬を備蓄することは、地域の皆様の安全安心のため非常に大切なことだと考えております。

しかしながら、町の防災計画で建設計画予定地に隣接する「旧岩科小学校」が救護所医療資器材保管箇所として指定され、すでにそこには災害時に備えた必要な医療資器材の一式が備蓄されています。

また、新しく診療所が建設されると、近くには薬局も開設される見込みで、災害時には賀茂薬剤師会との協定により医薬品等の供給の協力もいただけることになっています。

こうした状況から、今回、新しく建設する診療所に医療資器材を備蓄することは現在のところ考えておりません。

今回の診療所建設予定地は、議員の言われるとおり、津波浸水区域外にあつて防災上も大事な拠点となる場所となりますので、そこへ災害時に備えて必要な薬を備蓄することは、地域の

皆様の安全安心のため非常に大切なことだと考えております。

しかしながら、町の防災計画で建設計画予定地に隣接する「旧岩科小学校」が救護所医療資器材保管箇所として指定され、すでにそこには災害時に備えた必要な医療資器材の一式が備蓄されています。

また、新しく診療所が建設されると、近くには薬局も開設される見込みで、災害時には賀茂薬剤師会との協定により医薬品等の供給の協力もいただけることになっています。

こうした状況から、今回、新しく建設する診療所に医療資器材を備蓄することは現在のところ考えておりません。

## 2. 道の駅パーク構想と旧依田邸の改修について。

道の駅は改修ではなくて、旧依田邸の改修を重点に進めるべきであると思うが、町長の考えはどうかという質問であります。

渡辺議員の質問で回答したとおり、道の駅・旧依田邸の整備活用につきましては、町で一方的に基本計画を策定したのではなくて、議会選出議員、地元関係者、産業関係者、まちづくり団体、金融機関などで構成する道の駅パーク構想基本計画策定委員会を設置し、協議検討を行い本年3月に基本計画を策定したもので、道の駅・旧依田邸どちらかに重点を置くということではなくて、どちらも重要であると考えています。

②道の駅については、新たに直売所建設は見直すべきだと考えるが、どうかという質問であります。

道の駅花の三聖苑の運営状況は、これまでの10年間収支はすべてマイナスで、このような現状を改善していくために昨年から道の駅のあるべき姿を、町民の皆さん参画のもと、県や外部アドバイザーの指導もいただきながら検討を重ねてまいりました。

直売所の新設は、こういった皆さんと協議検討しながら進められてきたものであります。直売所の売り上げは生産者の収入に直結するものであるため、一人でも多くの生産者に出品していただき所得の増加に結び付けていきたいと考えております。

直売所が生産者や消費者にとって有益なものであるとともに、道の駅の賑わいや売り上げの改善につながるようにしてまいりたいと思います。

したがって、見直すということではなく、成功させるために実行に向けて大いに燃えているところでございます。

3. 猫の避妊・去勢手術補助についてでございますが、これについては、全国的に見ましても以前から野良猫にまつわる問題が大きな社会問題となっております。その中でも主なものは

繁殖期の鳴き声による騒音、糞尿によるにおいや衛生面の被害、飼い猫や人への伝染病や寄生虫の感染、生ゴミ荒らしなどがあります。

平成25年に動物の愛護及び管理に関する法律が改正され、都道府県は基本的に猫の引き取りができなくなり、静岡県においても猫の引き取り頭数を削減するなどの対応をとっています。また、殺処分ゼロにむけて、県動物保護協会、県獣医師会、市町、ボランティア等と協働して、責任をもって飼っていただくことの徹底や新しい飼い主探し等の様々な取り組みを行っています。

ご質問の避妊・去勢手術につきましては、動物愛護の観点から、飼い主のいない猫の増加を防止するため、繁殖活動を抑制し野良猫の数を減らしていくものでございます。当町におきましても補助金制度創設の要望が多数寄せられており、現在、新年度に向けて補助制度創設の準備を進めているところでございます。

以上、伴議員の質問にお答えしました。

○2番（伴 高志君） 一問一答でお願いします。

○議長（土屋清武君） 許可します。

○2番（伴 高志君） まず、最初の診療所の関係ですけれども、これは最初の町長の公約ということでありましたけれども、場所の選定の根拠ということはありませんか。

ちなみに、津波浸水区域外ということであれば、岩科地区以外でも・・・、中川方面、下田からも道路があると・・・、岩科の場合だとそこで・・・、蛇石だと狭くなってしまうということもありますけれども、そのあたりの場所の選定についての根拠というのはありましたでしょうか。

○健康福祉課長（新田徳彦君） ただいま場所選定の根拠というご質問があったかと思いますが、先ほどお話しがありましたように岩科幼稚園を改修してということで、岩科地区ということではいま計画はしているところでございます。

なぜ岩科地区へということになったかといいますと、もちろん統合等によって、あそこも遊休施設の活用という面もあるんですけれども、ほかにも津波浸水区域外になるということ、また大規模災害時には、例えば、中川方面につきましては、県道下田松崎線がありまして、そちらからの補給が確保できますけれども、岩科地区におきましては、もし津波等の災害が起きた場合には本当に孤立することが予想されますので、そういった観点から今回岩科地区へということで、場所の選定をさせてもらった次第でございます。

○統括課長（高木和彦君） これは、相手もあることですので、まだ予定ということでご理解い

ただきたいと思います。

○2番(伴 高志君) この計画というのが、町長の公約ですから進めていくということが前提になっていくと思うんですけども、全員協議会の中では初めて出てきた話で、実施計画から執行までの予算の概要というのいま説明があったとおりでと思いますので、過疎債の適用ということも出てくるとは思いますけれども、これは最終的には議会の承認を得て行うということですよ。

○健康福祉課長(新田徳彦君) こちらの計画につきましては、当然予算の執行を伴うものでございますので、議会の議員の皆様のご了解というものを得なければならぬものでございます。

○2番(伴 高志君) もちろん町長が住民のニーズに応える形で公約にしたということだと思いますので、そうするとやはり議会の承認をしっかりと得て、そして、実行に移していただかないと始まらないと考えます。

そして、町長が答弁されたんですけども、お医者さんに来てもらうという・・・、こちらに・・・、医者の確保ということになりますけれども、これは賀茂医師会にお願いしていくという方向でありますけれども、現在・・・、当町で、民間で診療所を行っている・・・、これらの関係の中では、そういったお話しというのが進んでいくようなところでしょうか。考えているとおっしゃいましたが、具体的にはどういうふうに話し合われていますか。

○健康福祉課長(新田徳彦君) 医師の確保につきましては、全力を挙げているところでございますので、まだこの辺の内容につきましては、ちょっとシビアな内容でございますので、そこにつきましては発言は控えさせていただきます。

○統括課長(高木和彦君) いま伴議員の発言の中に賀茂医師会みたいな・・・、賀茂医師会ではなくて、地域医療振興協会の方に打診する・・・、ただ、ここに一度にお願いしているというのではなくて、この組織というのは、全国の過疎地域の医療がどうあるべきかというのを考える組織なんです。

そこでまたいろいろやって、例えば、そこの判断で、どここの病院を誘致したらどうですかという話が出るかもしれませんし、やってもなかなかうまくいかないだろうから、うちの方でお医者さんを考えるとかという形のところであって、必ずしも全部が決定しているわけではありませんので、ご理解ください。

○2番(伴 高志君) 決まっていなくていろいろ質問するのも難しいところですけども、このお医者さんに来ていただけたら・・・、でも、民間と違って、町の財源で行っていくと

ということが一つあります。

それで、一次救急を行うということなんですけれども、現実的にはやっぱり高齢化率が高くなってきて、一人暮らしの高齢者が増えている中で、訪問診療をしていくということが地域の危機的な課題になるかと思えますけれども、そういったことも考えていますでしょうか。

○健康福祉課長（新田徳彦君）　いま我われの方で考えておりますのは、一次救急、かかりつけ医的なものを考えております。

あくまでも・・・、仮に腕があったとしても地域住民の方と全然コミュニケーションをとらないような方が来られますとちょっと我われの方も困るんですけれども、できれば、かかりつけ医ということで地域に根差した、患者様に寄り添った形で、往診もするし、そういった医療に貢献してくださる方をということで、我われの方は希望しているところでございます。

○2番（伴　高志君）　これは、これからの課題になると思いますので、今後も議会の中でも・・・、お話しを進めていただいて、そういう中で、議会の承認を得て進めていただきたいと思えます。

それで・・・、一応診療所の関係は・・・。

次に、道の駅の質問に移ります。これは午前中から繰り返し直売所の関係を中心に質問があったと思えます。

私から聞きたいところとしては、この質問の中で、道の駅と旧依田邸の改修とがセットになっての構想だと思いますけれども、これは過疎債を適用してと・・・、その財源的になるべく町の持ち出しを少なくするというので、最近の住民説明会の中でもそういうお話しだったと思います。そうすると、この中の道の駅に使う部分と旧依田邸に使う部分というのは、これはもう決められているものなんですか。それはもう決まってしまって・・・、実施設計が出されているわけなんですけれども、その中で決まってしまっている話なんですか。

○企画観光課長（高橋良延君）　先月の住民説明会の中でも概算事業費ということで、まだ確定ということまではいきませんけれども、予定ということで申し上げました。概算工事費ですね。

その中では、来年度道の駅の整備改修工事については、1億4000万円程度、それから旧依田邸の施設改修については5000万円程度ということで事業費の工事費の予定ということで申し上げました。

ですから、それぞれの施設ごとにそういった工事費の算定をしまして、予算に計上してまいります。

○2番(伴 高志君) それがもし今後変更ということが考えられるのであれば、私は、繰り返しくになりますけれども、直売所の改修ということには着工せずに・・・、旧依田邸の方に500万円という金額ではおそらくとてもちゃんとした改修工事はできないと思いますので、やはりその中で変更ができるのであればということを考えて質問いたしました。

それで、結局、この運営主体はどこなのかというところで、説明の中では振興公社に最終的にはお願いすると・・・、振興公社がまた業務委託したりとか・・・、そういう形だと思うんですけども、そうすると、やっぱり今まで公社の関係でまつぎ荘の質問もありましたし、公社が抱えている・・・、毎年かかる経費ですね。こういうところの関係がどうしても避けられないということになってくると思うので、基本的にはこの道の駅パークをできる限り小規模で・・・、旧依田邸か道の駅か・・・、どちらかに重点を置くようにした方がいいと考えますけれども、いかがでしょうか。

○企画観光課長(高橋良延君) そもそもですが、この道の駅の構想、整備活用するにあたって、先ほど町長が何度も申し上げているとおり、町が一方的にそれを、計画を策定したのではなくて、いろんな方がその計画の中に参画して、いろいろなご意見をいただきながら、本年3月に基本計画としてまとまってきたということです。

ですから、その中で道の駅に物販機能をということは、町の皆さんと協議した基本計画、こういった策定委員会で決定されたものでございます。

ですので、町で一方的に決めたということではないというのは、そういうことでございます。

それから、もう一つ申し上げました。農業委員会という組織がございますね。町と離れた独立委員会がありますけれども、この農業委員会で協議され、今年の3月に松崎町農業振興ビジョンという冊子で、こういったことでまとめたものがあるんです。これはまさに松崎町のこれからの農業振興をどうするかということだと思います。

これを農業者の皆さんが一年間近く、数年かけた・・・、話し合いながらこれからの農業をどうするべきかということ考えたビジョンであります。

この中に、先ほども言いましたように、販売利益の高い直売所の建設が必要だということはこのビジョンの中でも謳ってあるんです。

ですから、これは農業者の皆さんがこれからの農業振興の一つとして、直売所の必要性、そういったものがあるということで、まとめられたものであると考えています。

したがって、いろいろなご意見はあるかと思いますが、そういったことを総合的

に考えまして、この道の駅の整備活用ですね。旧依田邸も含めてですけれども、考えて決定したところでございます。

○2番(伴 高志君) 細かいところであれですけれども、農業委員会ですとか、農産物・・・、主に農産物だと思いますけれども、出荷に関するアンケートを取って、そういう結果も徐々に出てきていると思いますけれども、その内容はどうなっていますでしょうか。

○企画観光課長(高橋良延君) 当然生産者の確保ということでも我われはこの4月から既に生産者を訪問して進めているところでございます。現在までのところ400名の方々に聞き取りという形では説明もしながら、行っているところでございます。

その生産者がどんな農産物を作って、出荷できるかどうかを含めて聞き取りをしているところでございます。

そういったことで、何しろ直売所の開設に向けて、やはり生産者の確保ということではもう既に進めているということは申し上げたいと思います。

○2番(伴 高志君) その400名を対象というか・・・、それで実際に戻ってきているものは・・・、何名位いらして、どういった内容というのは教えていただけますか。

○企画観光課長(高橋良延君) 細かいことまでここで申し上げられませんが、その中で直売所でそういった農産物を出したい、出してもいいという方はいらっしゃると思いますので、今後そういった販売・・・、販売品目があるのかといった一覧表とか・・・、量を含めて、そういったリストを作りまして、今後詰めていきたいなと思っています。

○2番(伴 高志君) それがやっぱり少数名に留まって・・・、もちろん力のある・・・、加工品だとかを出荷できる方はいいと思いますけれども、そういった方々優遇になってしまって・・・、やっぱり直売所の運営というのは、地域の住民の理解を得ながら行っていくということが前提になれば・・・、買い物に行くのも来るのもとても難しいなということがあると思いますので、そうすると、もう、観光客目当てということが完全に対象として絞らなくてはならないというふうになってくるのではないかと考えています。

ですから、実際にいろんな農産物とか、加工品とか、あるいは民芸品とかもあるかもしれないですけれども、そういった方々の・・・、規模を想定してからの数字というか、そういうところでないとなかなか・・・、数字の上での平均値というところの根拠では難しいんじゃないかと考えますが、いかがでしょうか。

○企画観光課長(高橋良延君) 決してこの直売所を観光客だけ目当てにする直売所とはいたしません。

当然地元の住民の方、近隣の方を含めまして、この直売所を利用していただきたいと思っておりますので、そこはご理解いただきたいと思えます。

それから、どんなものを集めるかは、いままさに調査もしていますし、これからリストアップもしていくと申し上げました。

ただ、先ほど申し上げました農産物だけではありません。ここのところというのは・・・考えているのは・・・やはり海のものも松崎はありますし、農林水産物あるいは加工品、いま言った工芸品ですとか、姉妹都市の産品とか、松崎のブランド・・・、商業者のブランド品がありますね。松崎ブランド、そういったことを含めました松崎の地場のものを結集した直売所にしたいと申し上げましたので、そういった観点からここの直売所は松崎のあらゆる地場のものが集まるというような形で運営をしていきたいと思っていますので、それは、当然農産物についてはいま調査をしていますし、水産あるいは商工業者等々について今現在話も進めておりますので、そういった形で今後の直売所の・・・、リストアップ、運営体制、運営方法を詰めてまいりたいと思っています。

○2番（伴 高志君） いろいろ細かい数字はあまり言及しないんですけども、この直売所を建設した場合というのは、減価償却というか、何年で償却できるとか、そういった計画というのはありますか。

○企画観光課長（高橋良延君） こちらについては、伊豆まつぎき荘については企業会計方式ということで、通常の方がやっている経営方式ですね。減価償却という形でやっているわけですけども、美術館とか、町営の道の駅もそうですけれども、そういったところの施設については、会計方式については減価償却・・・、そういった企業会計の方式をとっておりません。いわゆる収入があったら、町の一般会計の方に上げてもらって、指定管理の委託料を支出の方で出しているという形で、その収入と支出の差という形の経営方式でございます。

○2番（伴 高志君） やっぱり直売所をやるとなると、すごくシビアな経営になると思いますので、そういったところが詰められていかないと、とても出荷する人は・・・、売れば出すという声はあっても、みんなやっぱり周りを見てやりますから、本当に・・・、最初の出だしがどれだけシビアかというところになると思いますので、私は、本来この花の三聖苑というこの立地条件が観光のスポットとしてやっぱり直売所が中心じゃなくて、松崎町の文化の集まる場所というところで作られた観光施設だと考えますので、ここに、直売所に力を入れるということは、まだとても賛同することができません。

それで、これからそういったところの計画をまた随時示していただけたらと思います。

それでは、最後、3番ですけれども、このネコの避妊助成の関係ですけれども、ぜひこれは松崎町でもお願いしたいと思います。

実際に活動されている方は、捕獲器も自前でもって、それで山の中に入ったり、たまり場になっているところすごく苦勞して、近所に迷惑をかけているところを本当にそういう動物愛護の精神でやって、なんで松崎は助成がないのかということがありましたので・・・。

ネコだけじゃないです。獣害で・・・、畑を荒らしたり、そういうこともありますので、ぜひ進めていただきたいと思います。

○議長（土屋清武君） 回答は・・・。

○2番（伴 高志君） 回答がありましたらお願いします。

○生活環境課長（鈴木 悟君） その件につきましては、町長の回答の中にございましたけれども、補助金制度等でその要望が多数寄せられておりまして、現在新年度に向けまして、補助金制度創設の準備をすすめているところでございます。

○2番（伴 高志君） 以上で私の一般質問を終わります。

○議長（土屋清武君） 以上で伴高志君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午後 2時50分）

---